

【目的】vulnerable plaque の評価は治療計画を検討する上で非常に有用な情報となる。vulnerable plaque の特徴は低 CT 値プラーク、陽性リモデリング、spotty な石灰化の存在などがあるが、中でも ring like sign は、プラークの破綻部位に高頻度に認められるという報告もあり、PCI 中に合併症をおこす可能性が高いことが考えられる。ring 部の plainCT 画像や IVUS 画像も参照し、PCI における合併症発生との関連について検討する。【方法】CT 上 ring like sign を有する症例とそれ以外の症例で PCI 中の合併症発生に関し、様々な観点から比較検証した。【結果】当院での連続した冠動脈 CT 検査症例において ring like sign を有する症例は、約5%あり、そのうち PCI 中合併症を起こした症例は約40%とそれ以外の症例に対し有意に高かった。合併症を起こした ring like sign の症例には、spotty な石灰化や偏心性でCT値の低いプラーク、陽性リモデリング、IVUS 上広範囲に超音波減衰がみられるなどの特徴も認められた。【結論】ring like sign は vulnerable plaque の特徴的な所見を複数もっているものも多く、PCI 中の合併症リスクも有意に高かった。CT による ring 部の描出や詳細な解析は心カテチームで治療計画を討議していく上で重要な情報で、PCI がより安全に行えるよう治療の支援を行う事が重要と考えられる。